

四半期報告書

(第47期第1四半期)

株式会社エッチ・ケー・エス

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	3
第3 【提出会社の状況】	4
1 【株式等の状況】	4
2 【役員の状況】	5
第4 【経理の状況】	6
1 【四半期連結財務諸表】	7
2 【その他】	12
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	13

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2020年1月14日

【四半期会計期間】 第47期第1四半期(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)

【会社名】 株式会社エッチ・ケー・エス

【英訳名】 HKS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 水口 大輔

【本店の所在の場所】 静岡県富士宮市上井出2266番地

【電話番号】 0544(29)1111

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務部長 赤池 龍記

【最寄りの連絡場所】 静岡県富士宮市北山7181番地

【電話番号】 0544(29)1111

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務部長 赤池 龍記

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第1四半期 連結累計期間	第47期 第1四半期 連結累計期間	第46期
会計期間	自 2018年9月1日 至 2018年11月30日	自 2019年9月1日 至 2019年11月30日	自 2018年9月1日 至 2019年8月31日
売上高 (千円)	1,675,861	1,771,833	7,545,508
経常利益または経常損失(△) (千円)	△320	58,381	222,755
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益または親会社株主に帰属する四半期純損失(△) (千円)	△963	38,349	105,887
四半期包括利益または包括利益 (千円)	14,376	57,798	85,359
純資産額 (千円)	8,522,037	8,564,544	8,549,372
総資産額 (千円)	11,557,146	12,478,653	12,180,836
1株当たり四半期(当期)純利益または1株当たり四半期純損失(△) (円)	△1.33	54.20	148.47
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	73.4	68.4	70.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第46期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第46期および第47期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出を中心に弱さが長引いているものの、雇用、所得環境の改善が続くなかで、景気は緩やかな回復基調で推移しております。しかしながら、通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引き上げ後の消費者マインドの動向等について引き続き留意すべき状況が続いております。

このようななか、当社グループが主とする自動車のアフターマーケット事業は、国内においては消費税引き上げに伴う駆け込み需要により売上高は前年同期比で増加となり、海外においても、特に北米地域の売上高の伸長により前年同期比で増加となりました。アフターマーケット以外の分野では、エンジン部品、マフラー等の製造受託の売上高は伸長したものの、IoT、水上バイク用スーパーチャージャー等の開発・製造受託の売上高は前年同期に比べて減少となりました。以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結売上高は1,771百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

損益面では、人件費および減価償却費等が増加したことにより販売費及び一般管理費が前年同期に比べ16百万円増加しましたが、売上高の増加および売上総利益率の上昇により営業利益は33百万円(前年同期は21百万円の営業損失)、為替が前連結会計年度末に比べて円安に進んだことから経常利益は58百万円(前年同期は0百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は38百万円(前年同期は0百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ297百万円増加し、12,478百万円となりました。このうち流動資産は、前連結会計年度末に比べ362百万円増加し、5,683百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が198百万円減少しましたが、現金及び預金が511百万円、たな卸資産が123百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ64百万円減少し、6,795百万円となりました。これは主に、減価償却等により有形固定資産が71百万円減少したこと等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ282百万円増加し、3,914百万円となりました。このうち流動負債は、前連結会計年度末に比べ28百万円減少し、2,718百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が157百万円増加しましたが、その他流動負債が128百万円、未払法人税等が116百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ311百万円増加し、1,195百万円となりました。これは主に長期借入金が305百万円増加したこと等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ15百万円増加し、8,564百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が16百万円増加したこと等によるものです。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費総額は251百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,200,000
計	3,200,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年1月14日)	上場金融商品取引所 名または登録認可金 融商品取引業協会名	内容
普通株式	800,000	800,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	800,000	800,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月1日～ 2019年11月30日	—	800,000	—	878,750	—	—

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしています。

① 【発行済株式】

2019年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 92,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 707,000	7,070	—
単元未満株式	普通株式 600	—	—
発行済株式総数	普通株式 800,000	—	—
総株主の議決権	—	7,070	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式35株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年8月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社エッチ・ケー・ エス	静岡県富士宮市上井出 2266	92,400	—	92,400	11.6
計	—	92,400	—	92,400	11.6

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年9月1日から2019年11月30日まで)および第1四半期連結累計期間(2019年9月1日から2019年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、芙蓉監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,939,773	2,451,576
受取手形及び売掛金	1,157,004	958,413
製品	1,257,224	1,410,902
仕掛品	229,137	196,963
原材料及び貯蔵品	522,534	524,468
その他	219,729	144,955
貸倒引当金	△4,392	△3,926
流動資産合計	5,321,011	5,683,353
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,996,121	1,968,229
機械装置及び運搬具（純額）	1,181,815	1,125,533
土地	2,060,605	2,061,834
リース資産（純額）	32,310	30,855
建設仮勘定	402,501	408,696
その他（純額）	100,096	106,417
有形固定資産合計	5,773,450	5,701,566
無形固定資産		
その他	148,322	142,769
無形固定資産合計	148,322	142,769
投資その他の資産		
投資有価証券	619,239	644,897
長期貸付金	15,032	11,464
その他	306,332	297,164
貸倒引当金	△2,551	△2,561
投資その他の資産合計	938,052	950,965
固定資産合計	6,859,825	6,795,300
資産合計	12,180,836	12,478,653

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	333,459	490,539
電子記録債務	542,556	470,054
短期借入金	881,030	946,623
リース債務	6,283	6,283
未払法人税等	149,718	32,923
賞与引当金	95,286	162,103
その他	739,025	610,075
流動負債合計	2,747,358	2,718,602
固定負債		
長期借入金	437,919	743,378
リース債務	28,392	26,822
役員退職慰労引当金	36,160	38,210
退職給付に係る負債	369,831	375,295
資産除去債務	4,690	4,690
その他	7,111	7,111
固定負債合計	884,105	1,195,506
負債合計	3,631,464	3,914,109
純資産の部		
株主資本		
資本金	878,750	878,750
資本剰余金	963,000	963,000
利益剰余金	7,053,903	7,049,798
自己株式	△350,615	△350,787
株主資本合計	8,545,038	8,540,761
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40,292	56,776
為替換算調整勘定	△60,572	△56,190
その他の包括利益累計額合計	△20,279	586
非支配株主持分	24,614	23,196
純資産合計	8,549,372	8,564,544
負債純資産合計	12,180,836	12,478,653

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2018年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)
売上高	1,675,861	1,771,833
売上原価	1,050,917	1,074,928
売上総利益	624,943	696,904
販売費及び一般管理費	646,933	663,840
営業利益又は営業損失(△)	△21,989	33,063
営業外収益		
受取利息	1,360	1,870
受取配当金	50	59
貸倒引当金戻入額	—	436
為替差益	12,760	17,572
その他	9,772	6,946
営業外収益合計	23,944	26,884
営業外費用		
支払利息	1,470	1,471
その他	804	95
営業外費用合計	2,275	1,567
経常利益又は経常損失(△)	△320	58,381
特別利益		
固定資産売却益	—	2,781
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	2,781
特別損失		
固定資産除却損	0	8
特別損失合計	0	8
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△317	61,154
法人税、住民税及び事業税	27,525	23,419
法人税等調整額	△26,366	1,000
法人税等合計	1,158	24,419
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,476	36,734
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△513	△1,614
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△963	38,349

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2018年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,476	36,734
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13,996	16,484
為替換算調整勘定	29,849	4,579
その他の包括利益合計	15,853	21,063
四半期包括利益	14,376	57,798
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,084	59,216
非支配株主に係る四半期包括利益	1,291	△1,417

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)
減価償却費	128,095千円	136,618千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2018年11月29日の第45期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)配当金の総額	43,272千円
(ロ)1株当たり配当額	60円
(ハ)基準日	2018年8月31日
(ニ)効力発生日	2018年11月30日
(ホ)配当の原資	利益剰余金

- (2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間末日後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2019年11月28日の第46期定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)配当金の総額	42,453千円
(ロ)1株当たり配当額	60円
(ハ)基準日	2019年8月31日
(ニ)効力発生日	2019年11月29日
(ホ)配当の原資	利益剰余金

- (2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間末日後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)

当社グループの報告セグメントは、「自動車等の関連部品事業」のみであり、「その他の事業」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)

当社グループの報告セグメントは、「自動車等の関連部品事業」のみであり、「その他の事業」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益または1株当たり四半期純損失(△)および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)
1株当たり四半期純利益または1株当たり四半期純損失(△)	△1円33銭	54円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益または親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	△963	38,349
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益または普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	△963	38,349
普通株式の期中平均株式数(千株)	721	707

(注) 1. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年1月9日

株式会社エッチ・ケー・エス
取締役会 御中

芙蓉監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 金 田 洋 一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴 木 岳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エッチ・ケー・エスの2019年9月1日から2020年8月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年9月1日から2019年11月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年9月1日から2019年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エッチ・ケー・エス及び連結子会社の2019年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2020年1月14日
【会社名】	株式会社エッチ・ケー・エス
【英訳名】	HKS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 水口 大輔
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	静岡県富士宮市上井出2266番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 水口大輔は、当社の第47期第1四半期（自 2019年9月1日 至 2019年11月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。